

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000732		
法人名	株式会社プラティア		
事業所名	グルーホームプラティアひょうたん山		
サービス種別	地域密着認知症対応型共同生活介護		
所在地	〒578-0946東大阪市新池島町1丁目1番5号		
自己評価作成日	令和1年8月15日	評価結果市町村受理日	令和1年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和1年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

次の5点をスローガンとして支援にあたっています。 1.入居者が主人公:日常生活はご本人の意向を大切に、私たちは不自由なところを補うサポート役です。 2.尊厳を保つ:プライバシーを最大限に確保し、どのような状態になられても尊厳する人生の先輩として節度ある対応に努めます。 3.いきいきとした生活:日々の生活の中で役割を持つことにより、一人ひとりの可能性を引き出し、いきいきとした生活を送っていただきます。 4.認知症の進行の防止:趣味や外出、家事などをその人ができる範囲で行うことにより、認知症の進行を防止します。 5.地域社会と共に:地域に開かれた施設として、地域の皆様に支えられながら共に歩みます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所前の川沿いに桜並木の遊歩道があり、気候の良い時期には散歩を日課とし、また、買い物・受診等日常生活に便利な環境にある。共有空間はゆったりと広く、採光がよく清潔感があり、季節の制作や行事・外出時の写真等を壁面に飾り、キッチンもあり、季節感や生活感が感じられる。家族の面会や運営推進会議への参加が多く、家族とのつながりを大切にしながら支援できるように取り組んでいる。手作りの調理・行事食を継続し、利用者の家事参加・役割づくり・自立支援に取り組み、「寄り添い介護」を活用した利用者個々の要望の実現にも努めている。事業所内研修・クリップライン研修・定期的な会議・人事考課制度等、職員の資質向上に努め、定着もよい。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけ、出勤時も確認している。また全体会議でも唱和している。	運営理念と5つのスローガンを法人全体で共有し、スローガンに「地域社会と共に」という地域密着型サービスとしての意義を明示している。運営理念を各ユニットのスタッフルームに掲示し、毎月の全体会議で唱和する等、職員の共有を図っている。クリップラインを活用した研修で理解を深め、寄り添い介護への取り組み等が理念の実践につなげられるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新池島町自治会の行事に参加させていただいている。(春祭り、夏祭り、秋祭りなど)	新池島町自治会に加入し、春・夏・秋の地域の祭りに参加し、利用者が地域と交流できる機会を設けている。プラティア秋祭りには、地域住民も招待している。気候の良い時期には近隣の散歩を日課として地域の人々と挨拶を交わし、近隣の喫茶店、店舗、理美容院等を利用できるように支援している。子ども会の廃品回収にも協力している。地域のドラッグストアで実施していた、地域住民に向けた介護相談を再開する予定である。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、今後も一層、地域交流・地域貢献に取り組まれることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけている。また全体会議でも唱和している。		

グループホームプラティアひょうたん山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中にグループホームがあるということ を念頭において、地域の方、家族様と積極的に意見交換を行っています。	利用者・家族・地域代表(自治会長)・地域包括支援センター職員・知見者(地域のクリニック事務長・他事業所管理者)を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。毎回多数(4人～5人)の家族の参加があり、可能な範囲で利用者・知見者の参加もある。会議では資料を配布して、利用者状況、事業所の活動や取り組み、事故等の報告を行い、その後参加者と意見・情報の交換を行っている。家族からの意見や、自治会長からの地域の動向や地域行事についての情報等を、サービスや運営に反映できるように取り組んでいる。会議の議事録は玄関に設置して公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する勉強会、連絡会には積極的に参加している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、事業所の状況を伝え、連携を図っている。管理者が東大阪市地域密着型サービス事業者協議連絡会の会議や研修に参加している。福祉の支援を必要とする利用者に、市のケースワーカーと協働して支援している。不明なことや相談があれば市に問い合わせ、助言を運営等に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけている。またスタッフ会議でも唱和している。	身体拘束廃止適正化指針を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。法人として、クリップラインによる職員全員視聴の研修体制を整備し、身体拘束廃止についても実施し、全体会議でも研修を行っている。身体拘束適正化委員会は、全体会議の中で実施している。「プラティア禁止事項」を掲示し、スピーチロックについて意識付けを行い防止に努めている。玄関は鍵をかけているが、外出の意向があれば職員が対応し、また、階段・エレベーターの使用で、1階・2階を自由に行き来でき閉塞感を感じないように配慮している。	

グループホームプラティアひょうたん山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が外部の虐待に対する研修に参加し、職員には管理者から研修しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市などが主催する勉強会には参加し、制度の把握に努めている。現在、成年後見制度を利用されている方が2名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明時間を取り、重要事項説明書、利用契約書で理解した上で入所していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者様の行動、発言・様子からニーズの把握に努めている。家族様には面会時や電話やお手紙、機関紙「プラティア通信」で定期的に報告している	日頃から家族の面会が多く、面会時に家族の意見や要望の把握に努めている。「プラティア通信」・個別の「家族だより」・ブログなどで、行事や活動、利用者の近況を報告し意見や要望が出しやすいようにしている。把握した意見や要望は業務日誌や介護日誌に記録して職員の周知を図っている。運営推進会議に多数の家族の参加があり、外部者に意見を表せる機会も設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニット毎の会議、またグループホーム合同の会議を開催し意見や要望を聞き入れたり、日々の業務の機会でも意見を聞き反映している。	月1回全体会議とユニット会議を開催し、管理者、時にはエリア長も参加し、職員の意見や提案の把握に努めている。年2回エリア長や管理者が人事考課の個人面接を行い、管理者は随時の個人面談や日々の業務の中でも、職員の意見を個別に聞く機会を設けている。職員の意見や提案は、利用者のケアや業務改善等に反映し、内容に応じて、エリア長を通して法人に伝える仕組みもある。	

グルーホームプラティアひょうたん山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の仕事に常に目を向け、指導や相談にのり評価される人事考課表を実施し、モチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の職員研修、階層別の研修を計画的に実施するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会を通じて他の事業者との交流し、研修会にも参加したり、交流会に出向いたり活動している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接において、本人、家族様等から十分意見を聞き、それまでに関わりのあったケアマネや介護ワーカー、相談員等にも直接会って話を伺い、入居者様を多方面から知る事ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始の段階で、本人様の個室で、意思を表明しやすいよう配慮しながら、傾聴・受容・共感するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分な面接を行い、適切なサービスについて助言する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話や料理等の家事等において、生活知識や歴史的な事を職員が学ぶ機会があり、共に支えあえる関係を心がけている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡以外、急病時にも即連絡している。またケアプランの作成時、職員からの報告の際にも助言、要望を聞き取るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から外出ニーズを聞き職員同行するように努めている。収集した情報をもとに馴染みの人や場所に関係する外出を提案する事がある。	日々の会話の中で、馴染みの人や場所についての情報の把握に努めている。近隣からの入居が多く、家族・親族・友人・知人等の来訪が多く、また、散歩・買い物・喫茶等で馴染みの場所へ出かける機会もある。馴染みの人の来訪があれば、居室や共用空間でゆっくり面会できるように配慮し関係継続を支援している。寄り添い介護を活用し、思い出のある馴染みの場所に出かけられるよう個別に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事がないように職員は利用者のパイ役になり、例え口論があってもコミュニケーションの一つと捕らえフォローすることで関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族様や退去先等と連絡を取り、随時経過を聞きつつ、相談を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中からニーズを聞き出し、希望に添えるように努めている。	日々の会話の中で利用者個々の思いや意向をの把握に努め、介護日誌やフロア会議で共有している。把握した内容は、日々の支援や介護計画、内容に応じて、寄り添い介護の企画等に反映し、思いや意向に沿えるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、表情や反応から推察したり、家族からの意見や情報を参考にする等して、把握に努めている。	

グルーホームプラティアひょうたん山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントに引き続き、ケアマネ、家族、ソーシャルワーカーの協力の下、生活歴の把握に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の会話の中からニーズを聞き出し、希望に添えるように努めている。		
26	(10)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングと面会時やお便り、電話で本人のニーズ、家族の思いを導入したい事項に取り入れることを連絡することで連携している。	入居時に把握した内容から課題を抽出し、初回の介護計画を作成している。計画内容はフロア会議等で、周知を図っている。サービスの実施状況は介護日誌やチェック表に記録し、毎月のフロア会議で利用者の状況の共有と課題があれば検討している。定期的には6カ月毎に介護計画の見直しを行い、見直しの際にはモニタリング表でモニタリングを実施し、アセスメント表でADLを確認し、評価を次の介護計画に反映している。	利用者個々の情報シートを統一し、生活歴や人物像が把握できる情報の追記・蓄積が望まれる。介護計画に基づいたサービス実践の記録の工夫、また、計画の見直し時の会議の位置づけを明確にすることが望まれる。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の介護日誌を記録し、心身の状態の変化や気づきの点を申し送り欄に記入する事で職員の情報の共有をしやすくして、モニタリングにも活用している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活歴、フェースシート家族等から参考や管理者からアドバイスし、個人個人にあった生活を提供させていただけるよう取り組んでいます。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや、コンビニを活用させていただいている。また図書館などの公共施設も活用している。		

グループホームプラティアひょうたん山

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関はあるが、希望があれば入居前の主治医の継続は可能である。週1～2回の割合で往診を受け、緊急時は24時間対応できる体制を確保している。	入居時に利用者・家族の希望を確認し、希望に沿った受診支援を行っている。協力医療機関による内科・精神科・眼科・歯科の往診、また、訪問看護の訪問が受けられる体制がある。入居前からのかかりつけ医の継続も可能であり、通院の際には家族の同行を基本としているが、事業所も臨機応変に支援している。往診については健康管理日誌や往診記録に記録し、通院については介護日誌に記録し、医師・看護師・職員の連携を図っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の体調の変化など気付いた事を看護師訪問時または電話でも報告している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は週1回の割合で面会を行い、医療機関より情報を提供していただきフロアで共有している。退院後の対応も予め会議で協議し円滑に進めている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やターミナルケアに向け家族や主治医との連絡を密にし、合わせて話し合いの場を設け、今後の方針を明確にしている。	重度化・終末期に向けた事業所の方針について、契約時に「医療指針説明書」で説明し同意を得ている。重度化を迎えた段階で、医師から説明、事業所から再度説明を行い、家族の意向を確認している。看取りの希望があれば、看取りの介護計画を作成し、家族の意向に沿って支援している。事業所の年間研修計画に沿って、「看取り介護」研修を毎年実施している。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて、急変や事故発生時の対応・応用力がつかうように努めている。	/	
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者が防火管理者となり、消防計画を消防署に提出。年2回通報・避難・消火訓練を行っている。	昨年度は2回、昼間想定での消防訓練を実施している。今年度は昼間想定での訓練を実施し、10月に夜間想定での訓練を予定している。消防訓練計画書・消防訓練実施要項・訓練記録を作成し、参加できなかった職員にはそれらを回覧して周知を図っている。事業所内で、備蓄を行っている。	防災・災害時対応について、運営推進会議や自治会長との連携を活用し、地域との協力体制を築く取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針の中で尊厳をうたっており、また、研修でも、高齢者の人権やプライバシーの確保等を取り上げている。	尊厳保持・プライバシー保護について、運営方針・5つのスローガンに明示し共有を図っている。事業所内研修・クリップライン研修・「プラティア禁止事項」の掲示などにより、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について意識付けできるように取り組んでいる。個人記録類はスタッフルームの鍵のかかるロッカーに保管し、掲示やブログでの写真の使用については契約時の確認表で意向を確認している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思いを表明しやすいような言葉かけや、自己決定を促すような声掛けを行っている。	/	

グルーホームプラティアひょうたん山

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の機会、起床時間など利用者の意思決定に合わせたケアを心がけている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣する時は、利用者に服を選択してもらえるようにしている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のカットや盛り付け、片付けを職員と一緒にやっている。	献立と食材料を委託業者に依頼し、昼食・夕食を各フロアで調理し手作りの食事を提供している。食材のカットや盛り付け、片付けに利用者が参加できるように支援している。職員も一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気ですべてが楽しめるように配慮している。毎月1回以上「行事食」を企画し、利用者の希望を聞いて、焼肉・寿司・ピザ・餃子等を提供している。献立によっては、職員と一緒に買い物・調理を行っている。レクや寄り添い介護を活用して、外食や喫茶を楽しむ機会も設けている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間、午前、午後のお茶出しの時間以外にも、随時水分摂取の声掛けはしている。食事時間は利用者に合わせた時間を十分に取り、自立を促す介助に取り組んでいる。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一度の歯科往診で診察を受ける他、居宅療養管理指導も受けており、又、自身でできない方には介助にて口腔ケアを行っている。		

グルーホームプラティアひょうたん山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ユニットケアの特性を活かし、介助困難な場合でも複数で対応して日中はトイレ介助で排泄を促し、個々の排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけ・誘導を行っている。介助困難な場合も、複数の職員で対応し、日中はトイレで排泄できるように取り組んでいる。毎月のフロア会議で利用者個々の状況や意向を共有し、現状に適した介助方法や排泄用品を検討している。誘導時の声かけ・ドアの開閉・待機の位置等に留意し、プライバシーや羞恥心への配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の食事で食物繊維、水分摂取、乳製品等の食物で自然な形での排泄を促す取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間等は固定せず、気分や希望等に応じて入浴して頂く。入浴を嫌がる方には、時間を掛けてお話しして入浴に繋がったり、それでも断られる時は、清拭や足浴等に切り替えている。	週2回以上の入浴を基本とし、曜日や時間帯を固定せず、利用者の希望やタイミングに応じて入浴できるように取り組んでいる。フロア会議で利用者個々の状況や意向を共有し、2人介助・同性介助・声かけ等、介助方法や配慮を検討して対応している。ゆず湯や入浴剤など、入浴を楽しめる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や状況等に応じて、安心して安全に休息、あるいは睡眠をとって頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の内容の把握はもちろん、変更に関しても介護日誌の申し送り欄で職員全体が把握できるようにしている。		

グルーホームプラティアひょうたん山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持つておられる力を発現できるよう、又、嗜好や楽しみが実現できるよう、生活歴を掘り下げ、希望等を聞き、それらに添ったきめ細やかな支援を行っている。		
49	(18)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい時期には日常的に散歩に出かけている。又個別の馴染みの場所や行きたくても普段行けない場所等にも、業務内容や職員の人員をやりくりし、時には家族様等の協力も得て、出掛けられるよう支援している。	事業所前の川沿いに桜並木の遊歩道があり、気候の良い時期には、歩行の利用者も車いす使用の利用者も散歩を日課としている。買い物・喫茶・受診等で、近隣に出かける機会もある。初詣、地域の春・夏・秋祭り、花見等、季節感が味わえる外出も行っている。遠方の外出は、寄り添い介護を活用して企画し、個別に外出支援を行っている。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は小遣い銭を持たれているが、出来ない方でも小口現金をお預かりし、買い物の際はご自身で支払いしていただいている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば職員は家族に連絡し、事情を説明した後、家族と話せるように対応している。また、希望に応じて携帯電話の使用に対する支援も行っている。		
52	(19)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビング等には、入居者様の手による、季節が感じられる切り絵や絵画、習字、写真等を掲示している。	共有空間は、採光がよく明るく清潔感があり、ゆったりと広く居心地のよい環境である。テーブル席・ソファセット・テレビ等が配置され、塗り絵をしたりテレビを見たり談話する等、思い思いに過ごせるように配慮されている。利用者と一緒に制作した季節の作品や、行事・外出時の写真等が壁面に飾られ、キッチンもあり、季節感や生活感が感じられる。調理の下準備・後片付け、洗濯、掃除を職員と一緒にし、家事参加・役割づくりの機会作りに努めている。エレベーター・階段を自由に使い、ユニット間の交流や気分転換ができる環境である。	

グルーホームプラティアひょうたん山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人掛けの椅子や多人数用のソファを、リビングに置いて、思い通りに過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、在宅生活の継続が図られるよう家具等出来るだけ馴染みの物を持参して頂くようにしている。	洗面台・クローゼットが居室に設置され、家族の協力を得て、ベット・たんす・ソファ・テレビ等使い慣れた家具や道具が持ち込まれている。家族の写真・人形・カレンダー等、好みのもや自身の制作を飾り、居心地良く過ごせる環境づくりに努めている。居室担当者を設置し、家族と相談しながら、利用者が居室で快適に安全に暮らせるように取り組んでいる。各居室の前に写真を入れた壁飾りを設置し、部屋間違いの防止に工夫している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりを設置し、バリアフリー移動しやすい環境を整えている		